

IPM関連剤

ミヤコトップ

ミヤコカブリダニ…………… 2,000頭/250ml

種類名/ミヤコカブリダニ剤
農林水産省登録/第22894号
(アグリ総研登録)

毒性/—
有効年限/—
包装/250mlボトル(2,000頭入り)

特長

- いちごで問題となるハダニ類の卵～成虫まで捕食する有力な土着天敵です。
- 薬剤抵抗性の発達したハダニ類にも効果を発揮します。
- 広食性のカブリダニのためナミハダニ、カンザワハダニの他、コナダニ、花粉なども餌とするため、ハダニ類の発生前からスケジュール的に放飼できます。

適用害虫と使用方法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	適用害虫名	10a当り使用量	使用時期	総使用回数*	使用方法
野菜類(施設栽培)	ハダニ類	約2000～6000頭	発生初期	—	放飼

上手な使い方

(いちごの例)

- 放飼前にハダニ類の密度を極力落とすため、以下の通り化学薬剤との体系使用を行ってください。
 - ①定植1～2週間後を目安にカブリダニに影響の少ない化学薬剤を散布してください。
 - ②スポット的に見られるハダニ類は気門封鎖剤(エコピタ液剤)などで防除してください。
 - ③定植30～40日後、株同士の葉が重なり合い、花が咲いたら放飼してください。
 - ④最初の放飼は、10アール当り6000頭を目安に行ってください。以降ハダニ類が発生した場合は、影響の少ない化学薬剤を散布し、追加放飼を行ってください。
- 放飼前、放飼期間中はカブリダニに影響のある化学薬剤を使用しないでください。
- 春先は気温が上昇し、ハダニ類の増殖に好適な環境となるため、状況に応じて影響の少ない化学薬剤を散布してください。

使用にあたって

■使用上の注意

- ハダニ類を捕食する天敵ミヤコカブリダニを含有する製剤です。
- ミヤコカブリダニの生存日数は短いので、入手後直ちに使用し、使いきってください。
- 容器中でミヤコカブリダニが偏在していることがありますので、放飼前に10～20分ほどボトルを横に寝かせてください。使用の際には容器を横にしてゆっくり縦に10～20回転、横に10～20回転させて均一に混和した後、葉上へ少量に分けて圃場に均一に放飼してください。放飼中もこの作業を時々行ってください。
- ハダニ類の生息密度が高くなってからの放飼では十分な効果が得られないことがありますので、ハダニ類がまだ低密度で散見された時点、あるいは、発生前から放飼をしてください。なお、ハダニ類の発生は均一ではないので、ハダニ類の密度の高い場所へ重点的に放飼してください。
- ミヤコカブリダニが天敵として有効な密度(ミヤコカブリダニ1頭当りハダニ類が10～30頭以下)を保つため、ハダニ類の発生初期より約1週間間隔で数回放飼してください。
- 本剤の使用中は、日中の施設内の平均室温を15～30℃に保ってください。
- ミヤコカブリダニの活動に影響を及ぼすおそれがあるので、本剤の放飼前後の薬剤散布はさけてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 容器、空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないように適切に処理してください。

■貯蔵上の注意

- 本剤は天敵生物であり、生存日数が短いので、入手後直ちに使用し、保存しないでください。

本資料の記載内容は2023年1月17日現在の登録内容に基づいています。